

今なぜ地域との対話が 必要なのでしょう？



化学物質排出把握管理促進法第四条において、事業者の責務として対象事業者は、化学物質の管理の状況に関する国民の理解を深めるよう努めなければならないとされています。

化学物質に関する関心の高まり

～一般の人の多くは、化学物質をネガティブなイメージで捉えています～

近年、ダイオキシン類や内分泌かく乱物質(いわゆる環境ホルモン)など様々な問題が指摘される中で、身近に存在する化学物質に関心を持つ人が増えています。

「工場や廃棄物処理施設などから排出される化学物質に不安を感じる」と答えた人が8割を超えたという調査結果もあります(図1)。

各種トラブルの未然防止と企業イメージの向上

～地域との対話は重要です～

不安の大きな要因の一つは、適切な情報が提供されていないと住民が感じていることです(図2)。日常的な対話を通じて信頼関係を築いていけば、事業者だけでは気付かなかった問題が分かるようになり、問題がこじれる前に対処できます。

工場の建て替えや苦情があった際の対応だけでなく、日常的に信頼関係を構築することが重要です。

積極的な情報提供をしていることは、「きちんとしたリスク管理に取り組んでいる企業」であることをアピールできます。

PRTRがスタート！

～事業所の情報公開が始まります～

PRTRのもとでは、国に届出をされた個別事業所の排出量等が国民の請求に応じて開示されます。

対象となる事業所が自らの排出量等について説明することはもちろんのこと、対象となっていない事業所について「なぜ、届出がなされていないか」の説明を住民から求められる場面も考えられます。



化学物質の安全に関する適切な情報提供や住民との対話によって、
地域から信頼される企業となることが不可欠です。

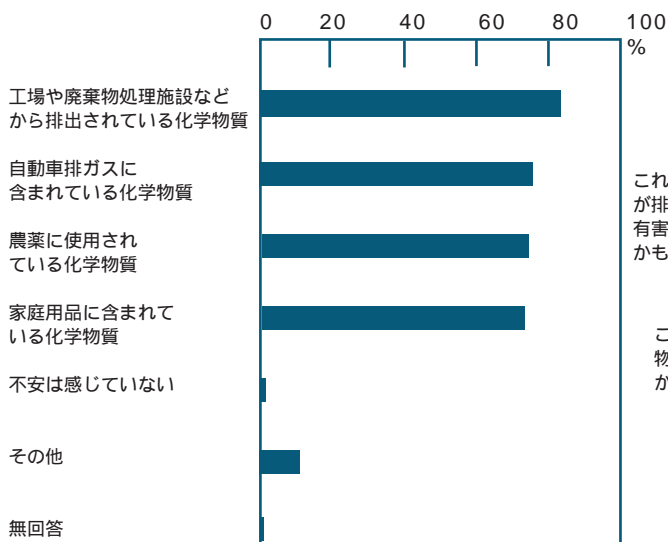


図1 化学物質に不安を感じるか

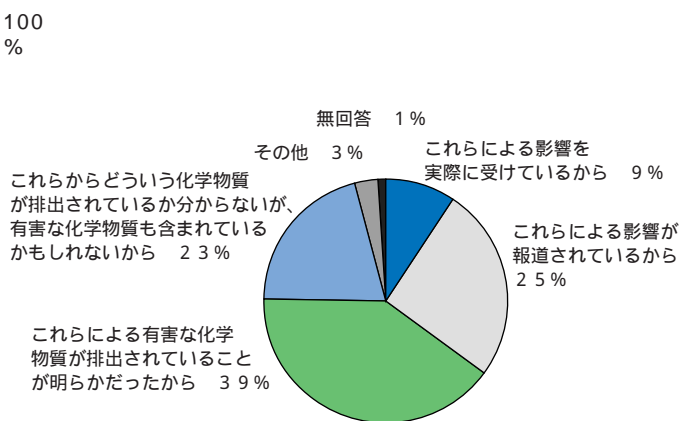


図2 身近に存在する化学物質の不安感の原因

(平成12年度環境モニター・アンケート「化学物質対策に関する意識調査」から抜粋)

P R T Rとは？

P R T R (Pollutant Release and Transfer Register)とは、人の健康や生態系に有害なおそれのある化学物質が、どのような発生源からどれくらい環境中へ排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外へ運び出されたかというデータを事業者が把握して国に届出を行い、国が集計して公表する仕組みです。

P R T Rは、化学物質排出把握管理促進法に基づき平成13年4月から実施されています。

M S D S制度とは？

M S D S (Material Safety Data Sheet)制度とは、有害性のおそれのある化学物質及びそれを含有する製品を他の事業者へ譲渡、提供する際に事業者、化学物質等の性状及び取扱いに関する情報を相手へ提供することを義務付けた制度です。化学物質排出把握管理促進法では、政令で定める化学物質及びこれらを含む一定の要件を満たす製品について、平成13年1月からMSDSの提供が義務付けられました。

(参考) 経済産業省MSDSホームページ

(MSDSの例)

化学物質等安全データシート(性状取扱情報)

1. 製品及び会社情報

製品名 トリクロロエチレン
会社名 霞が関工業株式会社
住所 神奈川県横浜市中区1丁目1番地
担当部門 品質保証部
担当者(作成者) 製品太郎
電話番号 045-123-4567
FAX番号 045-123-4568
製品コード COS-0001
緊急連絡先 横浜工場(電話番号045-123-1234)
整理番号 TCE-1

2. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別 単一製品
化学名 トリクロロエチレン
別名 トリクロルエチレン、三塩化エチレン
成分及び含有量 99%
化学特性(化学式又は構造式) $\text{CHCl}=\text{CCl}_2$
官報公示整理番号(化審法・安衛法) 2-105
CAS No. 79-01-6
化学物質管理促進法 第一種指定化学物質政令第211号
労働安全衛生法 57条の2第1項(通知対象物政令第383号)

3. 危険有害性の要約

最重要危険有害性：吸入したり皮膚からの体内への吸収により、中枢神経系や血液に影響を及ぼす。蒸気は強い麻酔作用がある。
有害性：蒸気は強い麻酔作用があり、肝臓や腎臓に障害を起こしうる。この液体と接触すると、目は刺激され、継続して作用を受けると皮膚も刺激される。急性毒性の結果としては、中枢神経系の一時的障害、しかし永続的障害も起こる。
火災の場合は、有害な塩化水素等が発生する。
環境影響：水生生物に中程度の毒性を示すが、生物蓄積は低い。
物理的及び化学的危険性：トリクロロエチレンは、室温では難燃性である。しかし、高温度や高酸素濃度等の特殊な条件下では引火し、時には爆発する。
分類の名称：(分類基準は日本方式)急性毒性物質、その他の有害性物質

4. 応急措置

吸入した場合：傷病者を新鮮な空気のところに移し、窮屈な衣服部分は緩めて安楽な状態にし、医師が来るまで身体を冷やしてはならない。呼吸が停止しているときは、直ちに人工呼吸を行なうとともに、医師の診断を受けさせる。

(以下省略)

化学物質の環境リスクと コミュニケーションの重要性



安全など事業活動にかかわるリスクは、少ないことが望ましいのですが、リスクをゼロにすることはできません。このため、上手にリスクとつきあっていくことが重要になります。特に、多種多様な化学物質を扱っている事業者は、そうした化学物質の環境リスクを踏まえて適正な管理を行うことが重要です。

(リスクは有害性×暴露量！の巻)

全ての化学物質は何らかの有害性があります。塩も多量に摂取すれば人の健康を損なうリスクがあります。



暴露量と濃度とは異なります。



リスクを踏まえた管理が大事！

化学物質の環境リスク

リスクとは、望ましくないことが発生する起こりやすさ(確率)をしめしたものです。化学物質の「環境リスク」は、化学物質などによる環境汚染が人の健康や生態系に好ましくない影響を与えるおそれのいい、化学物質の有害性の程度と、それにどのくらいさらされているか(暴露量)によって決まります。これを式で表すと、次のようになります。

化学物質の環境リスク = 化学物質の有害性 × 暴露量

暴露量が小さければ、リスクは小さくなるわけですから、有害化学物質が排出されているからといって、すぐにリスクが大きいということにはなりません。暴露量を知るためには、大気や排水の中にどのくらい有害化学物質がでているのかを知ることが必要になります。